

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解している。 ②事業所と地域の関係強化を謳った独自の理念を作成している。 ③理念は地域密着型サービスの役割を反映させたものとなっている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	①管理者は、理念を全職員に周知し、共有化するための取り組みを行っている。 ②職員は、理念の意味を理解し、日々のサービス提供場面に反映させている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	①事業所の玄関に、利用者や家族等が見やすく分かりやすいように理念を掲示している。 ②理念をいこいの森通信に明示している。 ③事業所利用時には、理念を利用者や家族等に説明しているし、ホールに掲示している。 ④利用者の個人情報に配慮した上で、町内会に集う、ふれあい生き生きサロン等に参加した折に理念の説明等を行っている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している	①日頃から近隣の人たちに気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけを行っている。 ②事業所の立地する地域の町内会や民生委員、商店等の地域資源に関わりながら、事業所を理解してもらおうと共に、交流を図る為の働きかけを行っている。 ③見学や認知症に関する相談、実習生、ボランティア等を受け入れたり、認知症の予防・普及活動へ出向いたりして事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>①運営者や管理者は、評価のねらいや活用方法等をミーティングで全職員に周知する取り組みを行っている。</p> <p>②職員は、評価のねらいや活用方法等を理解している。</p> <p>③自己評価は運営者や管理者のみではなく、職員も一緒に取り組んでいる。</p> <p>④外部評価の結果を基に、改善策の検討や改善計画を策定する等、今後のより良いケアサービスの提供につなげる為の取り組みを行っている。</p>	
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>①運営推進会議のメンバーに会議の意義や役割を理解してもらい、積極的に参加を促す取り組みを行っている。</p> <p>②会議では、報告や情報交換を行うほかに、メンバーの意見を引き出し、それを今後の取り組みに繋げていく取り組みを行っている。</p> <p>③会議では、自己評価の結果について説明をしている。</p> <p>④会議では、外部評価の結果を公表している。</p> <p>⑤会議では、自己評価や外部評価の結果を基にした改善等について報告し、意見交換を行う等、サービスの質の確保・向上につなげている。</p>	
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>①市町村へ、ホームのパンフレットや広報誌等を配布している。</p> <p>②ホームの実態等を理解してもらう為、自己評価や外部評価の結果を提出し、報告している。</p> <p>③必要に応じて、利用者の利便性の向上等、生活の質を上げるための課題解決に向けて、行政との連携を図っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>①外部研修への参加や内部研修の実施等を通じて、全職員が権利擁護事業や成年後見制度について理解を深める取り組みを行っている。</p> <p>②管理者・職員は、権利擁護事業や成年後見制度の概要について理解している。</p> <p>③必要に応じて、利用者や家族等に事業についての情報提供や、事業利用につなげる支援を行っている。</p>		
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>①外部研修への参加や内部研修の実施等を通じて、全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深める取り組みを行っている。</p> <p>②管理者は、職員の日々のケアの提供場面を観察する等、虐待を未然に防ぐよう努めている。</p> <p>③高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について取り決めがある。</p> <p>④虐待を発見した場合の対応方法について全職員が理解している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
10	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>①契約時は、利用者や家族等に、事業所の理念等ケアの方針や取り組み等について説明している。</p> <p>②契約時は、利用者や家族等の疑問や意見を引き出す働きかけを行っている。</p> <p>③契約を改訂する際は、利用者や家族等に十分に説明を行い、同意を得ている。</p> <p>④退居の際には、契約に基づき、利用者や家族等に十分に説明を行い、同意を得ている。</p> <p>⑤退居の際には、利用者や家族等に不安を生じさせない様に、退居先の情報提供を行う等の支援を行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①運営者や管理者、職員は、利用者が意見や苦情を出しやすいよう働きかけを行っている。 ②意見等を上手に表す事が出来ない利用者に対して、利用者の言動から本人の不満や意見等を察するよう取り組んでいる。 ③運営推進会議のメンバーや介護相談員等、利用者が外部に意見等を話させる機会を作っている。 ④出された意見や苦情等を検討し、速やかな対応を行う体制が整備されている。 ⑤出された意見や苦情等を、今後のより良い事業所運営に活かしている。		
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	①利用者の暮らしぶりについて定期的に報告している。 ②利用者の健康状態や受診状況等について定期的に報告している。 ③利用者の金銭管理の状況について出納帳に記録して、定期的に領収書も含めて家族に渡している ④職員の移動など、利用者へのサービス提供体制に変化があった時には報告している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①家族等が意見や要望などを話しやすい雰囲気作りを行っている。 ②事業所の苦情受付窓口を明示している。 ③外部の苦情受付窓口を明示している。 ④苦情受付窓口は継続的に家族等に周知している ⑤家族等からだされた意見や苦情等を日々のケアサービスに反映させていく取り組みを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①事業所の運営方法や利用者の受入等の決定事項について、職員の意見を聞く機会を設けている ②職員から出された意見が反映される仕組みが整えられている。〔入所等検討委員会の実施〕		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	①利用者本位の暮らしを実際に支援できる人員配置になっている。 ②夜間にケアが必要な利用者に対応できる体制が整えられている。 ③職員の急な休み等には変わりの職員を確保する体制が整えられている。		
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	①運営者や管理者、職員は、担当職員の交代による利用者への影響を理解しており、移動や配置換え等に配慮している。 ②担当職員の異動や配置換え等を行う際には、利用者に十分説明をしている。 ③担当職員の異動や配置換え等を行う際には、新しく担当する職員に詳細に引き継ぎを行っている ④新しい職員を配置する際には、利用者に十分に説明している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>①運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成の必要性を認識し、具体化するための方針を示している。</p> <p>②年間の研修計画を作成している。</p> <p>③職員は、個々の力量や経験におうじた研修を平均的に受講している。</p> <p>④研修受講後は報告書を作成している。</p> <p>⑤研修受講後は、内容を日々のケアに活かせるよう、報告会や伝達研修を行う等、全職員に周知している。</p> <p>⑥研修受講の際は、日々のケアに支障を来さないよう、勤務体制等に配慮を行って勤務表を作成している。</p> <p>⑦法人や事業所内に、業務について助言をする人材〔スーパーバイザー〕を確保している。</p>	
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>①運営者は、同業者との交流や連携の必要性を認識し、具体化するための方針を示している。</p> <p>②管理者は、同業者の協議会やネットワークに加入する等、同業者との交流・連携の機会が確保されている。</p> <p>④同業者との交流・連携を通じて、日々のサービスや職員育成につなげるために具体的に取組んでいる。</p>	
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>④日常的に、あるいは面談等で、管理者が職員の悩みやストレスを聞いている。</p> <p>②管理者は、職員の悩みやストレスの背景を理解し、解消につなげる取り組みを行っている。</p> <p>③職員の意見を聞きながら、休憩場所を確保するよう配慮している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>20</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>①運営者は、現場の状況のほか、職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。</p> <p>②健康診断実施等、職員の心身の健康を保つための体制を整えている。</p> <p>③労働基準法に則って職員の労働条件を整えている</p> <p>④就業規則があり、守られている。</p> <p>⑤運営者は、保有資格を活かした職員配置とする等、職員のやりがいや向上心がもてる職場環境となるよう配慮している。</p>		
<p><b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>			
<p>21</p> <p>○初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>①サービス利用の相談があった時には、利用希望者や家族と面談する等、直接話しを聞き必ず面談の機会を設けている。</p> <p>②利用を前提として話しを進めるのではなく、まずは利用希望者の身体状況や思い、希望、ニーズを把握するよう努めている。</p> <p>③利用を前提として話しを進めるのではなく、まずは家族の思いや希望、ニーズを把握するように努力している。</p> <p>④相談をうける際には、利用希望者や家族との信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っている。</p>		
<p>22</p> <p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>①相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、その時点で何が必要かを見極めるよう努力している</p> <p>②対応出来る事については柔軟に実行している。</p> <p>③すぐに対応出来ない事に対しては方策を検討している。</p> <p>④必要に応じて地域包括支援センター等の関係機関との連携を密に図り、他のサービス機関に移行する支援を行っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23 ○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	①利用者が安心してサービスを利用できるよう、相談の受付の段階から利用者の視点に立った支援を心がけている。 ②利用者・家族等、双方の意向に沿ったサービス開始となるよう、十分に面談の機会をとり話し合いを行い、調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24 ○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	①職員は、利用者の喜怒哀楽を共感し、理解に努めている。 ②利用者には得意分野で力を発揮してもらおう等、利用者職員が共同しながら日々生活を共にしている。		
25 ○本人と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①家族との情報交換を密に行き、これまでの介護経験やサービス利用中である現在についての思いを聞きだして把握に努めている。 ②利用者の様子や、職員及び家族の思いを共有する等の取り組みを行い、利用者を共に支える関係づくりを作るよう努めている。		
26 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	①職員は、利用者と家族のこれまでの関係や、双方への思いをミーティング等を通して把握している ②家族との関係が途切れないよう、日々の利用者の様子を面会時や電話、手紙等で伝えたり、家族がホームに気安いよう働きかけを行っている。 ③利用者し家族との絆を大切にすると共に、家族の役割を奪わないような配慮を行っている。 ④利用者と家族が疎遠になっている場合は、必要に応じて関係修復に向けて取り組みを行っている		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所などを家族や担当のケアマネから情報を得て把握している。 ②知人等との電話や手紙での連絡を取り持つ等、必要に応じて、利用者がこれまで関わった人との交流を継続できるよう支援している。 ③希望等に応じて、利用者にとってなじみの場所に出かけられるように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	①職員は、利用者同士が共に助け合い、支えあって暮らしていく事の大切さを理解している。 ②仲の良し悪し等、利用者の人間関係を把握し他対応を行っている。 ③利用者が孤立しないよう常に配慮した支援を行っている。 ④利用者同士の関係や持っている力、個性を活かしてもらおう事により、より良い人間関係作りにつなげる働きかけを行っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	①サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を利用者や家族等に示し、相談等を行っている。 ②必要に応じて、家族の相談に応じる等、これまで築いてきた利用者よ家族との関係を継続するようつとめている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①職員は、利用者の 思いや希望、意向を把握するよう日々努めている。 ②利用者の意向等が十分に把握出来ない場合は、全職員が利用者の視点に立って意向等を把握するよう努めている。 ③必要に応じて、本人の事をよく知っている家族や関係者等から情報収集を行っている。	
31	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①利用者の、生活歴やライフスタイル、価値観等を把握している。 ②これまでの地域との関わりや利用してきたサービスを把握している。 ③必要に応じて、本人のことをよく知っている家族や関係者等から情報の収集を行っている。 ④必要に応じて、利用者のプライバシーに配慮しながら、利用者をよく知る親戚や友人からの情報収集を行っている。	
32	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	①利用者の1日の暮らし方や生活リズムを把握している。 ②日々の生活等を通して、利用者の出来る事、わかる力を把握している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>①介護計画作成時、利用者がその人らしく暮らし続ける事が出来る為に、可能な限り利用者の意見を聞くよう努めている。</p> <p>②介護計画は、全職員の意見や気付きを職員間で十分に話し合い、作成している。</p> <p>③必要に応じて、家族や関係者等、利用者をよく知る達の意見や気付きを反映させた介護計画を作成している。</p> <p>④介護計画は、利用者本位の個別具体的なものとなっている。</p>	
34	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>①介護計画の実施期間を明示している。</p> <p>②実施機関終了後は見直しを行っている。</p> <p>③実施期間中に関わらず、利用者の身体状況の変化や、利用者や家族等の希望の変化時には随時の見直しを行っている。</p> <p>④見直しを行う際には、職員だけでなく、必要に応じて利用者や家族、関係者等の意見や気付きを収集する等の再アセスメントを行っている。</p> <p>⑤利用者の状態や利用者及び家族等の希望等に変化が無いが、常に観察や把握する取り組みを行っている。</p>	
35	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>①一人ひとりについて、日々の暮らしやの様子や身体状況等について具体的に記録している。</p> <p>②日々の実践記録や職員の気付きを記録している</p> <p>③記録の内容を全職員が共有する事が出来る仕組みを整えている。</p> <p>④介護計画の見直しに活かせるよう、記録には計画に沿って実践したか、実践した結果がどうなったか等について記載している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々 <sup>々</sup> の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	①医療連携体制や自主サービスを組み合わせながら、利用者と家族等との暮らしの継続性を支援する為の柔軟な対応を取っている。 ②必要に応じて、利用者や家族等、地域からのニーズに応じて、新規事業の実施や自主サービスの開発・実施をしている。〔あぐりの里〕		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	①地域の民生委員やボランティア団体等を把握し、協力を呼びかけている。〔保育園・小学校等〕 ②利用者の意向に応じて、公民館等の地域資源を活用できるよう働きかけを行っている。 ③利用者がより安心して暮らせるために、消防署等からの協力が得られるよう働きかけを行っている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	①必要に応じて、事業所以外のケアマネジャー等との連携を図り、また利用者が安心して地域の暮らしを続ける事ができるよう、馴染みの理美容院の利用や周辺施設や保育園、病院等への働きかけや民生委員と意見交換している。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	①成年後見制度の利用の必要がある場合等、事業所内では解決できない困難事例がある場合は、地域包括支援センターと連携し、支援している。 ②利用者を長期的にケアしていくために、必要に応じて地域包括支援センターと協働しながら、関係機関や民生委員との協力体制の構築に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>40</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>①これまでの受診状況を把握している。</p> <p>②利用者や家族が希望する医療機関を継続して受診している。</p> <p>③定期的な受診のほか、体調変化や心配ごとのある時には、いつでも医療機関に相談し受診出来ている。</p> <p>④家族等も含めて、医療機関との情報交換や話し合いが行われている。</p> <p>⑤通院方法や受診結果の伝達方法は、利用者や家族等の納得が得られている。</p> <p>⑥受診結果は、利用者や家族等との共有が図られている。</p>		
<p>41</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>①認知症の医療に熱心な医療機関があるので、診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。</p>		
<p>42</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>①利用者の普段の状態や持病等を十分に把握している看護師の資格を持った職員を配置しており、また、訪問看護ステーションとの連携体制が整えられている。</p> <p>②24時間、いつでも気軽に相談出来るようにしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>①医療機関と利用者に関する情報交換や、状況に応じて早期退院に向けた話し合いを行う体制が整っており実施している。</p> <p>②退院に向けた支援体制について、家族も含めた体制が整って実施している。</p>		
<p>44</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>①利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしている。</p> <p>②重度化した場合に備えて、利用者や家族等、医療機関等と早期からの話し合いを行いながら意思統一を図って実施している。</p> <p>③終末期の対応について、利用者や家族等、医療機関等の早期発見化からの話し合いを行い、意思統一を図っている。</p>		
<p>45</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>①事業所として対応が可能な事、困難な事、不安な事等について職員間で常に話し合いを行う体制を整えている。</p> <p>②利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族との連携を図りながら支援していくよう体制を整えて実施している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	①利用者との日々の関わりや家族等からの情報により、利用者の希望や関心嗜好等を常に聞きだして、把握に努めて献立に反映させている。 ②利用者が十分に意思表示出来ない場合でも、日々の食事の摂取状況から把握したり、表情や態度等からも把握に努めている。 ③利用者の力量を把握して、自己決定を促す場面を作っている。 ④把握している利用者の希望等を基に、複数の選択肢を提示する等、利用者を選んでもらう場面づくりを行っている。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①利用者の言動を急がせないように、日々実行している。 ②業務より利用者の訴えの優先を心がけるようにしている。 ③利用者のペースやその日の希望、身体、精神状況に合わせた柔軟な支援の実施を心がけて実施している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	①利用者の個性や希望等を尊重し、利用者の好みで衣服を選んだり、おしゃれが出来る様支援を行っている。 ②衣服や整容の乱れはさりげなく日々サポートしている。 ③事業所で送迎や連絡、希望等に応じて馴染みの理美容院に出掛けられるよう支援している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①献立は、利用者の希望や好み、苦手なもの等に配慮し、苦手のものに対し代替品で対応している ②利用者の状況や意志等に応じて、調理の準備や後片付け等を促し、職員も一緒に行っている。 ③可能な限り、職員も利用者と一緒に席に着き、食事を摂っている。 ④食べこぼし等へのサポートを行いながらも、利用者との会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。		
52 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	①利用者の嗜好品を把握している。 ②入居者の状態に配慮しながら、嗜好品を日々暮らしの中に取り入れている。 ③嗜好品を取り入れる場合は、利用者の安全確認や他の利用者に迷惑がかからないよう十分配慮している。		
53 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①一人ひとりの排泄のパターンを記録・把握をしている。 ②パターンに応じて事前誘導を行う等、自立に向けた支援を行っている。 ③入居時おむつ使用している入居者は、リハビリパンツと尿取りパットに変えたりまた、普通の下着にしトイレ誘導を行っている。 ④尿意や便意の確認時、誘導時、失禁時は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、他の入居者に気付かれないよう速やかに行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	①利用者の入浴習慣や好みを把握の取り組みを行っている。 ②入浴日や時間帯、入浴方法等、利用者の意向を取り入れている。 ③職員は、入浴に対する利用者の羞恥心や負担感を十分理解した上で支援をしている。 ④入浴を拒否する利用者に対しては、声掛けや個々の利用者にあった対応等の工夫を行っている ⑤利用者の習慣等や現病等に配慮しながらも、つかりすぎや洗身等に対して適切な支援を行っている。		
55 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	①外出や訪問者の有無等、その日の出来事や疲れ具合に応じて柔軟に休息を取り入れている。 ②一人ひとりの睡眠パターンを把握している。 ③眠れない利用者については原因を見極め、本来のリズムを取り戻せるよう、1日の生活リズムを整えるよう支援している。 ④眠剤の服用についてはほとんど現在使用していない。 ⑤寝付けない入居者に対して、付き添ったり飲み物やお菓子等提供する等の適切な対応を行っている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①利用者の生活歴や希望、力量等を把握している ②利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①職員は、利用者自らが金銭管理を行う事の重要性を理解している。 ②利用者の力量や希望、家族の希望等に配慮しながら、利用者自らが金銭管理を行えるよう支援している。 ③金銭管理を行っていない利用者でも、買い物時には支払いを行ってもらえる等の支援を行っている ④利用者のその日の状態に合わせた支援を行っている。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	①利用者の楽しみや気分転換につながるよう、日常的に外に出る機会を作っている。〔ほぼ毎日〕 ②外出先には利用者の希望や習慣を取り入れている。 ③利用者の身体状況に合わせ、移動方法や移動距離に配慮した支援を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	①利用者が行きたい場所を把握している。 ②利用者から行きたい場所の希望が出されない場合は、職員の働きかけにより話してもらえよう取組んでいる。 ③一人ひとりの願いを叶えられるよう、必要に応じて家族等と相談しながら、実現に向けて取組んでいる。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①利用者に来る電話や手紙を歓迎する等、利用者が家族や知人等に電話や手紙をしやすい雰囲気作りを行っている。〔公衆電話の設置〕 ②利用者が電話をかけたり手紙を出す場合には、その利用を支援している。 ③会話内容や手紙の内容が他の利用者には知られないよう、プライバシーに配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①面会時間の設定はしていない。家族の都合に応じた柔軟な対応を行っている。 ②家族の訪問時には声掛けを行う等、過ごしやすい雰囲気作りを行っている。 ③入居者と家族が落ち着いて過ごせるような場所作りに配慮している。 ④家族等からの宿泊の希望に応じる体制が整えられている。 ⑤家族等が宿泊する場合には、あらかじめ予約をして頂いてもらい提供する。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①運営者及び全職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解している。 ②身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。 ③止むを得ず身体拘束を行う場合は、その利用や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制となっている。 ④止むを得ず身体拘束を行う場合は、家族等に説明を行い、同意を得る体制となっている。		
63	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	①日中は玄関に施錠しない等、利用者が自由に入出りできるよう工夫している。 ②居室等、利用者が日常的に入出りする場所を施錠していない。 ③外出傾向を察知出来る様見守り等を行っている ④利用者の外出傾向を察知した時には、職員が必ず付き添う等の支援を行っている。 ⑤やむを得ず施錠等を行う場合は、理由が明確であり、家族等への説明を行い、同意を得る体制にしている。 ⑥無断外出時に備えて、近隣からの協力が得られるよう働きかけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	①昼夜共に、職員は利用者を見守りやすい場所に居て、利用者の様子を把握している。 ②事業所内の構造は利用者の様子が分かりやすい構造である。 ③利用者のプライバシーや人権に触れる方法で利用者の様子を監視していない。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①注意の必要な物品の保管場所や方法についてのマニュアルや手引き書を作成する等の具体的な取り決めがあり、それに基づいて実行している。 ②保管や管理方法に関する取り決めが利用者の状態に合わなくなった時には、再検討が行われている。 ③利用者の目の届かない、かつ目に付かない保管方法となっている。		
66	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①現在の利用者の状況に応じて、想定される事故を職員間で検討している。 ②転倒や窒息、誤薬、行方不明、火災等の事故防止を理解すると共に、職員間での共有・徹底が図られている。 ③ヒヤリハット報告書、事故報告書の様式が整備されている。 ④事故等の発生時には報告書を作成すると共に、再発防止に向けた話し合いを行っている。 ⑤事故やヒヤリハット事例は全職員に周知されている。 ⑥報告書は全職員が常時確認出来る場所に整理して保管している。		
67	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	①夜間の対応も含めて、緊急対応マニュアルが作成されている。 ②全職員が応急手当や救急救命の研修を受講している。 ③全職員が応急手当や救急救命の訓練を定期的に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日中だけでなく、夜間も想定した具体的な避難誘導策が作成されている。</li> <li>②いざという時に適切な避難誘導が行える様、職員と利用者が一緒に定期的な訓練を行っている。</li> <li>③災害時の対応について、住民や警察署、消防署等からの理解・協力が得られるよう働きかけを行っている。</li> <li>④災害発生時に備えて、食料や飲料水、トイレ、寒さをしのげる物品等を用意している。</li> </ul>		
69 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利用者一人ひとりに起こり得るリスクを把握すると共に、その対応策を家族等に説明している。</li> <li>②起こり得るリスクや対応策について、利用者の状況変化等に応じて適宜の見直しを行っている。</li> </ul>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 ○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一人ひとりの持病やアレルギーの有無、留意事項を把握している。</li> <li>②利用者の異変の兆候を見落とさないよう、1日2回のバイタルチェックや常に顔色や様子に注意を払う事が全職員に徹底されている。</li> <li>③変化や異変の兆候があった場合には記録に残すと共に全職員で共有し、必要に応じて医療機関に相談する等の対応を行っている。</li> </ul>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①全職員が全利用者の薬の内容を把握出来る様具体的な取り組みを行っている。 ②のみ忘れや誤薬がないよう支援体制を整備している。 ③薬の変更時は速やかに全職員に周知している。 ④服薬による状態変化時は記録に残すと共に、家族や医師・訪問看護・指定の薬局に報告し、話し合いを行っている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解している。 ②便秘の原因を探ると共に、食材やメニューの工夫を行っている。 ③1日の食事や排泄、活動状況を見直し、自然排便を促す工夫を個別に行っている。 ④下剤や浣腸などを使用している場合は、個々に合わせた使用量や頻度となっており、安易に薬に頼らない工夫を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	①口腔内の手入れの必要性を全職員が理解している。 ②毎食後に口腔内の洗浄や入れ歯の手入れ等を行っている。 ③一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っている。 ④声掛けや一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74 ○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①栄養バランスに配慮した献立になっている。 〔栄養士が献立作成している。〕 ②1日の添う摂取カロリーを概ね把握している。 ③1日の水分摂取量概ね把握している。 ④必要に応じて食事や水分の摂取量を記録している。 ⑤献立や栄養摂取状況等について、栄養士等の専門家から指導、助言を常に得られる体制をなっている。		
75 ○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	①感染症の予防・早期発見・対応マニュアルが作成されている。 ②マニュアルは必要に応じて見直しを行っている ③マニュアル等に基づいて、定期的な学習の機会を設けている。 ④保健所の連携を図るなど、感染症に関する最新の情報を収集している。 ⑤感染症に関する利用者や家族等に周知している		
76 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①台所や調理用具等の清潔を保持するための具体的なマニュアルや手引書を作成し、それに基づいて実行している。 ②マニュアルや取り決め等は全職員に周知されている。 ③食材の在庫表を作成したり、冷蔵庫の整理日を決める等食材を無駄にせず、かつ新鮮な食材を使用するような工夫を行っている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
(1)居心地のよい環境づくり			
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①訪問者や利用者の視点に立って、事業所に入りやすい雰囲気を常に行っている。	
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①調度品等、家庭的な雰囲気を保てるよう配慮に努めている。 ②職員が立てる物音や声は騒がしくない。 ③テレビや音楽等の音量は適切である。 ④日射しや証明等、室内の明るさは適切である。 ⑤季節をかんじることが出来る工夫は常に行っている。	
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①共有空間に利用者がひとりですごせる場所を確保している。 ②入居者同士で団欒出来るスペースが確保されている。 ③喫煙場所を確保している。あるいは、喫煙場所を確保できる体制を取っている。	
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①入居前から使用していたり愛用していたもの等馴染みの物を持ってきてもらうよう家族に積極的に働きかけを行っている。 ②居室への持込がすくない場合は、利用者の意向を確認しながら、職員と利用者が一緒に一人ひとりに合った居室作りを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	①臭いや空気のとどみがないよう、事業所内は24時間自動の空調を行っている。 ②各居室・ホール等に温・湿度計を設置し、適宜確認しながら適切な温・湿度管理を行っている。 ③利用者にあわせた温・湿度調整を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①利用者の安全を考慮し、要所に手すり等の福祉用具を設置している。 ②生活空間で転倒に繋がる原因がないか常に観察して、環境整備を行っている。 ③流し台や洗面所、洗濯物干し等の高さなどは、高齢者でも使用しやすいよう配慮されている。 ④利用者の活動性を維持するために、必要に応じて車椅子等を用意している。 ⑤利用者の身体状況の変化に応じて、環境改善の工夫を行う体制が整えられている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	①利用者の混乱や失敗が続く時、あるいは利用者の稼働意欲や動きがスムーズな時の状況について環境面に焦点を当てた検証を常に行っている。 ②事業所内の気になる汚れや紛らわしい表示、同じ形状の扉等、利用者の混乱を招くような環境の要因に対して、速やかに改善につなげるための工夫を行っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	①庭に花を植えたり玄関先にベンチを設置する等、憩う、仕事をする等を通して利用者がその人らしく過ごせる場として、事業所の敷地内に野菜作り等を行い、敷地内をフルに活用している。また、季節感を感じてもらう為に季節ごとに花を植え替えし、利用者と共に花を選び作業も一緒に行っている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者本位のもとに、尊厳・自己決定・その人らしさを尊重し、日々の暮らしが安心・快で暮らせるように取り組んでいます